

エキスパート登録 専門家からの ワンポイント アドバイス

経営革新等認定支援機関 F-jimLABO 代表
中小企業診断士 事業承継士 IT コーディネーター 藤村 靖治

【略歴】平成11年：歯科技工士として、インプラント補綴に至るまでの全般技術を習得し独立開業を目指していた。
平成19年：妻の家業である自動車関連事業にて、仕組化による組織改革と複数の新事業を展開した。
令和2年：経営コンサルタント事務所を開設。
『情熱と責任を持って明るい未来を次世代に繋ぐ』をミッションとして、相応の現場経験と同族会社での経営改革経験を通じた等身大の支援を行っている。



『事業承継は“ゴール”ではなく“スタート”』

事業承継後の“成長”をどう描くか

事業承継という言葉を目にすると、多くの方が「経営権の引き継ぎ」や「相続」のイメージを持ちます。しかし、現代の中小企業経営において、事業承継は単なるゴールではなく、新たな成長へのスタートラインであると捉えることが重要です。

1. 事業承継の本質：新たな成長の出発点

事業承継は、会社の歴史や経営資源（人・物・金・知的財産）を次世代に引き継ぐ大きな転換点です。現経営者が築き上げてきた価値を守るだけでなく、後継者が自らのビジョンや新しい発想で企業を発展させる絶好の機会でもあります。「今うまくいっているから」と現状維持に甘んじるのではなく、時代の変化や顧客ニーズの多様化に対応した経営革新が不可欠です。

2. ビジョン共有と計画的な承継

円滑な事業承継のためには、現経営者と後継者が会社の「残すべきもの」と「変えるべきもの」を率直に話し合い、未来のビジョンを共有することが出発点となります。承継計画の段階から、5年後・10年後の会社の姿や成長戦略を明文化し、具体的なアクションプランを策定することで、承継後の迷いや混乱を防ぐことができます。

3. 経営革新の視点を取り入れる

事業承継をきっかけに新商品・新サービスの開発や、新たな生産方式の導入、業務プロセスの見直しなど、企業の成長を促す取り組みを積極的に進めることが求められます。例えば、現場の課題や顧客の声をヒントにした改善活動や、他業界の先進事例を応用した新規事業への挑戦は、後継者ならではの発想力を活かす絶好の機会です。

4. 外部支援とネットワークの活用

事業承継・経営革新の過程では、商工会や金融機関、専門家（中小企業診断士・税理士など）の伴走支援が大きな力になります。第三者の視点を取り入れた経営計画の策定や、補助金・融資制度の活用、地域ネットワークを通じた販路開拓や人材確保など、多様な支援策を積極的に利用しましょう。

5. まとめ

事業承継は「会社を守る」ためだけのものではなく、「新しい価値を生み出す」ためのスタートです。現経営者と後継者がともに未来を見据え、経営革新の視点を取り入れながら、計画的かつ前向きに取り組むことが、企業の持続的な成長と地域経済の発展につながります。まずは身近な支援機関に相談し、一歩を踏み出しましょう。



承継後の成長をどのように促進するか？

